

第348回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム・抄録》

日時：平成20年12月6日(土)午後3時
会場：新潟グランドホテル 5階 『波光の間』
新潟市中央区上大川前通3ノ町 025-228-6111

次回 第349回新潟地方会予告

日時：平成21年3月14日(土)午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成21年2月21日(水)

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分。討論3分

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025 (227) 2289/FAX：025 (227) 0784

会長 高橋 公太

15:00～15:40

座長 水澤隆樹

1. 臨床的に尿管癌の診断で腎尿管全摘術が施行IgG4-relating retroperitoneal fibrosisの1例

新発田病院泌尿器科¹⁾、がんセンター新潟病院病理部²⁾、新発田病院病理検査科³⁾
若生康一、小松集一、波田野彰彦¹⁾、川崎 隆²⁾、若木邦彦³⁾

症例は66歳男性。近医のCTで左尿管上部に腫瘤を指摘され当院泌尿器科受診。逆行性腎盂尿管造影では左上部尿管の狭窄があり、分腎尿細胞診ではclass IV (TCC, G1-G2)であった。左尿管癌、傍大動脈リンパ節転移の診断で左腎尿管全摘術 + リンパ節郭清を行った。病理診断はIgG4-relating retroperitoneal fibrosisであった。尿管周囲に発生したIgG4関連の後腹膜線維症を経験したので報告する。

2. 受傷当日に修復術を行った外傷性球部尿道完全断裂の2例

新潟市民病院泌尿器科 筒井寿基、今井智之、川上芳明

53歳、鉄パイプで会陰部を強打し、球部尿道完全断裂と診断。受傷当日 pull-through 法による尿道断裂修復術を施行。術後の尿道造影で尿道の連続性を確認し、尿道ブジーを継続中。尿道狭窄は認めず、尿道鏡にて尿道粘膜の修復が確認された。78歳、会陰部騎乗損傷による球部尿道完全断裂と診断。受傷当日 pull-through 法による尿道断裂修復術を施行。術後に尿道造影を行い、現在尿道ブジーで経過観察中。骨盤骨折など、他に外傷がない場合、緊急手術として端々吻合を行わない pull-through 法も有用であると思われた。

3. 精巣摘除後、正常だったβHCGの上昇と共に多発転移が見つかった精巣癌の1例

新潟市民病院¹⁾、新潟大学²⁾、新潟県立吉田病院外科³⁾
今井智之¹⁾、星井達彦²⁾、田崎正行²⁾、岡本春彦³⁾

30歳男性。右精巣に腫瘤を自覚し近医を受診。精巣腫瘍疑いで県立吉田病院を紹介され、高位精巣摘除術をおこなった。マーカーはβHCG 0.1以下、AFP 26で、病理結果は胎児性癌であった。AFP測定とCTによる経過観察をおこなっていたが、1年3ヶ月後に肺、肝、腎門部リンパ節への多発転移が見つかり、βHCG 4610と高値であった。BEP療法4コース、TIP療法4コース行い、βHCGが正常化したところで肝右葉切除、リンパ節摘除を行い、9ヶ月後再発は認められていない。

4. Retrovesical Tumor となった異所性前立腺組織の1例

JA 新潟厚生連 刈羽郡総合病院 泌尿器科 羽入修吾、信下智広

79歳男性。2006年健診でPSA 6.2。初診時、前立腺体積 38ml、肥大腺腫あり。針生検で癌なし。2008年3月 PSA 7.7、エコーで Retrovesical Tumor 直径 4cm。DRE で表面平滑、弾性硬。CT、MRI では腫瘤は膀胱直腸間で前立腺の後上部に接していた。TRUS 針生検およびTURP12g 施行。病理検査で腫瘤は前立腺組織で悪性所見なし。異所性前立腺組織と診断。経過観察中である。

15:40～16:20

座長 齋藤俊弘

5. 後腹膜鏡下腎尿管全摘後にポート再発を生じた1例

済生会下関病院 占部裕己・毛利 淳・高井公雄・上領頼啓

症例は66歳、男性。2004年他院にてTUR-Bt施行、CISの診断であった。2006年7月右水腎症の精査目的にて当科紹介。RPにて右下部尿管に狭窄あり、尿管鏡は挿入不可、分腎尿細胞診、自然尿細胞診ともclass3であった。CTにて傍大動脈リンパ節腫大あり、M-VAC療法2コース施行後リンパ節は著明に縮小した。2007年5月後腹膜鏡下右腎尿管全摘術施行、病理診断はmetastatic carcinoma, micropapillary type, urothelial carcinomaS/0であった。術後7ヶ月目にポート再発を生じ生検にて同様のcarcinomaの所見であった。

6. 悪性腫瘍に伴う水腎症に対する経皮的腎瘻術の検討

- 尿管ステント留置術との比較 -

厚生連長岡中央総合病院 高橋英祐、照沼正博

経皮的腎瘻術が施行された41例を中心に悪性腫瘍に伴う水腎症92例について検討した。腎瘻群はステント群に比べて泌尿器癌症例、両側水腎症症例が多く、術前Cr値は高いといった特徴があった。両側水腎症例の50%生存期間は4ヶ月で、腎瘻群、尿管ステント群で予後の差はなかった。両側水腎症かつAlb3g/dl以下の症例では50%生存期間が1ヶ月と極めて予後が悪かった。

7. ESWL 治療成績を左右する要因 —発射頻度を中心として—

新潟こばり病院泌尿器科¹⁾、ささがわ腎泌尿器科クリニック²⁾
木村元彦、志村尚宣¹⁾、笹川 亨²⁾

Siemens Lithostar Multilineを用い、2003年10月-2006年8月は120/min (Fast(F)群、843結石)、2006年9月-2008年8月は90/min (Slow(S)群、448結石)にて尿路結石の治療を行った。完全排石率は、腎結石でF=60.2%、S=53.2% (P=0.858)、尿管結石でF=81.6%、S=90.9% (P=0.0002)であった。しかしS群では高齢・下腎杯結石・診断時無痛(いずれも予後不良因子)の例が多いなど、両群の背景因子に無視できない差が認められたため、多重ロジスティック解析を行った。その結果完全排石について予後良好となる要因は、若年、疼痛がある、部位がdistal、長径が小さい、治療速度90/minと判明した。

8. Free skin graft 法による尿道下裂形成手術

新潟大学大学院・腎泌尿器病態学分野¹⁾、新潟市民病院泌尿器科²⁾
小原健司、水澤隆樹、原 昇、笠原 隆、鈴木一也、安楽 力、
石崎文雄、田所 央、高橋公太¹⁾、筒井 寿基²⁾

目的：Free skin graft 法による尿道下裂形成手術の方法と成績を報告する。
対象：対象は2007年5月から2008年10月までにFree skin graft 法にて尿道下裂形成手術を行った16例(手術時年齢9ヶ月から7歳；中央値1歳9ヶ月)である。
成績：15例中1例に外尿道口狭窄と尿道皮膚瘻を認め、外尿道口切開を行った。
14例でスリット状の外尿道口と包皮環状切除後の外観が得られた。
結論：Free skin graft 法による尿道下裂形成手術は良好な手術成績が得られ、審美的にも優れた手術法であると考えられた。

新潟泌尿器科同窓会総会

16:20～16:50

[会場 5階 千秋の間]

[休 憩 16:50~17:10]

サテライトセミナー

日 時：平成20年12月6日（土）

17時10分～18時00分

会 場：新潟グランドホテル 5階『波光の間』

17:10～17:20

製品紹介

「前立腺癌における最新の話題」

武田薬品工業 癌・免疫スペシャルコーディネーター 山田孝史

17:20～18:00

座長 新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

教授 高橋公太先生

「新潟県における臓器移植の推進 ～官・民一体の取組～」

講師 新潟県福祉保健部 健康対策課

課長 山崎理先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武田薬品工業株式会社

サテライトセミナー終了後、5階「常磐の間」にて合同懇親会となります。

お知らせ

日本泌尿器科学会専門医・指導医申請に必要な新潟地方会参加証は、地方会当日受付に用意してありますので、必要な先生は受付に申し出て下さい。